



JPHACKS2022

説明資料

JPHACKS組織委員会

JPHACKSとは



“ イノベータのための甲子園 ”

JPHACKSとはイノベータを目指すすべての学生にとっての甲子園のような存在を目指し、2014年から開催している、国内最大の産官学連携ハックイベントです。

学生向けのコンテストや起業、オープンイノベーションを支援する土壌が整ってきているなか、そもそもの製品アイデアや共に開発する仲間達と巡り会える場所はまだまだ数多くありません。

JPHACKSでは、チームでのものづくりを、学生間や企業との交流を交えながら、全国規模で競い合い、次につながる機会やフィードバックを得ることができます。

学業だけでは得ることのできないエンジニアリングの楽しさを感じられる機会や、社会に繋がる体験などを提供することで、誰もがテクノロジーを駆使してイノベータを目指せる環境を提供します。

“X-Tech 2022”

Inspire and transform together!





運営組織紹介

JPHACKS組織委員会 組織委員会 幹事
新田 章太

一般財団法人 総合研究奨励会



本会は、工学に関する研究を助成し、産業界と連携を保ちながら学術の発展に貢献することを目的として昭和16年に設立されました。本会の特徴は、主として東京大学大学院工学系研究科と緊密な連携を保ち、工学の基礎研究、応用研究を促進するための事業を行っていることにあります。本会は、主として東京大学大学院工学系研究科における、工学に関する基礎研究および応用研究の助成を行うほか、工学に関する国際交流の円滑化を促進する一助として、本学教員に関与する、各種国際会議等に参加するために要する経費の一部、および若手研究者が海外で開催され、かつ学会等に参加するために要する渡航費等を重要な助成、及び工学研究において顕著な業績を挙げた者の表彰等をおこなっております。また、工学に関する研究活動を社会に紹介し、その成果の還元を促進するため、定期的に工学セミナー・工学講座等の開催をおこなっております。賛助員に対しては各種の情報サービス等をおこなっております。このような事業を通して、我国の工学ならび工業技術の飛躍的な発展をはかり、技術立国に寄与することが本会の使命とするところであります。なお、本会は賛助費、寄付金、および資産から生じた果実等で運営されております。



学術の発展に
貢献することを
目指して

ご挨拶

近年の技術開発課題の多くは、ひとつの分野の研究成果や政策だけでは解決できず、複数の分野の知恵を総合的な視点から体系化して活用する必要があります。さらに産業界とのいっそう密接な連携を取りながら、複雑な課題への対応が必要となります。

一般財団法人総合研究奨励会は、このような要請に対応するため、産官学の情報交換、国際交流、研究開発の推進を図り、持続可能な社会の構築に貢献することを目指しております。



代表理事 大久保 達也

設立の趣旨

本会は、工学に関する研究を助成し、産業界と連携を保ちながら学術の発展に貢献することを目的として、昭和16年11月6日に設立されました。本会は、主として東京大学大学院工学系研究科、情報理工学系研究科等と緊密な連携を保ち、工学の基礎研究、応用研究を促進するための事業をおこなっています。

事業内容

総合研究奨励賞表彰

工学研究において顕著な業績を挙げた者の表彰

若手研究者海外渡航助成

海外で開催される学会等で発表する若手研究者への渡航費等の助成

セミナー・シンポジウム開催

東京大学等と共催するセミナー・シンポジウムの企画・開催

工学系研究科長等との意見交換会開催

本会賛助会員と工学系研究科長、副研究科長、総合研究機構長との定期的な意見交換会の開催

研究会等

1. 次世代マイクロ化学チップ研究会
2. フレキシブル医療IT研究会
3. 航空イノベーション研究会
4. 21世紀の日本の進路研究会
5. 液晶化学研究会
6. 無人機運行管理コンソーシアム
7. マイクロエネルギー変換研究会
8. グローバル・オブザベーション・システム研究会

学会等事務局

学会、学術関係法人等の事務局代行

受託事業

- 国の機関、民間企業から受託を受け、技術開発、調査等を実施しています。
1. CFRP 構造ユニット搭載歯科補綴物切削用マシニングセンタの開発（経産省補助金）
 2. 中小企業の医工連携による革新的医療機器開発事業（中小企業庁補助金）
 3. MEMS 振動発電デバイスの特性測定方法に関する評価（経産省系法人）
 4. エネルギー産業振興戦略調査（青森県）
 5. RO 法製造水質による無薬注前処理プロセスに関する調査（民間企業）
 6. 我が国の海洋開発産業を担う人材育成に関する調査（公益財団法人）
 7. オフショア産業の深海石油ガス探掘に関する調査（経産省系法人）
 8. 過去の未来予測調査の信頼性調査（民間企業）

賛助会員

本会の活動の趣旨にご賛同し、会費（1口につき年会費10万円）を納入された方が賛助会員になります。賛助会員資格は、4月1日から翌3月31日迄の1年間となります。中途加入の場合も、資格は加入年度の3月31日迄となります。

特典

- 総合研究奨励会の主催する研究会への参加
- 総合研究奨励会主催のセミナー・シンポジウム等への参加費の割引
- 東京大学との共同研究等産学連携に関する相談
- 東京大学工学系研究科等の研究報告、機関誌の送付
- 各種行事の案内等の送付

入会方法

裏面の「賛助会員申込書」にご記入のうえ、郵送にてお申し込みください。申込書受領後、会費の賛助会費振込依頼書を発行いたします。



組織委員会

JPHACKSの基本理念や方針を決議するとともに、全ての企画運営に関する意思決定権を有する。
またJPHACKSの実施に向けた、審査委員会・運営事務局・共催・後援への依頼や任命をする。

委員長：江崎 浩 副委員長：竹内 郁雄

審査委員会

JPHACKSのテーマ、審査基準、審査方法を議論、決定するとともに、組織委員会へ提出する。
また、会全体の審査そのものを実施する。

委員長：植松 幸生

運営事務局

組織委員会が決議した JPHACKSの企画、予算管理を実施するとともに、運営を実行する権限を有する。また、スポンサー・テクニカルパートナー・プログラムパートナーの獲得及び参加者の募集をおこなう。

委員長：堀 雅文（事務：株式会社ギブリー）

スポンサー

JPHACKSへの資金提供を実施する。
また、スポンサープランとして、参加者への会社内容の告知やスポンサー賞の提供を実施する。

スポンサー代表：松野 繁雄，上月 忠司

共催・提携校

JPHACKSの会場提供をする共催。
また、実行委員とともに参加者の募集や運営サポートを実施する提携校。

テクニカルパートナー

JPHACKS参加者に対し、
有償の技術的支援を無償にて実施する。

共催・後援・提携校(昨年実績)

JPHACKS

共催



北海道大学



東北大学



東京大学



名古屋工業大学



筑波大学
工学部情報工学科

後援



デジタル庁



経済産業省



福岡県



神戸市



東京工業大学
データサイエンス・AI特別専門
学修プログラム



東京工業大学



北海道科学大学



北海道情報専門学校



金沢大学



電気通信大学

青山学院大学
社会情報学部



IPA 情報処理推進機構



新化学技術推進協会
JACI 新化学技術推進協会



NICT 情報通信研究機構



NII 国立情報学研究所

提携校



北海道科学大学



北海道情報専門学校



金沢大学



仙台高等専門学校



電気通信大学

青山学院大学
社会情報学部



IPA 情報処理推進機構



新化学技術推進協会
JACI 新化学技術推進協会



NICT 情報通信研究機構



NII 国立情報学研究所



関西学院大学
研究推進社会連携機構
社会連携センター



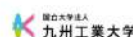
名城大学
社会連携センター



関西大学
イノベーション創生センター



奈良先端科学技術大学院大学



九州工業大学
学際研究・リサーチ教育・就職支援部



えさき ひろし

江崎 浩

組織委員長
東京大学大学院
情報理工学系研究科
教授



たけうち いくお

竹内 郁雄

副委員長
東京大学 名誉教授
IPA未踏
統括プロジェクトマネージャー
株式会社ギブリー 技術顧問



ほり まさゆき

堀 雅文

運営事務局長
東京大学大学院工学系研究科
客員研究員
一般財団法人 総合研究奨励会
理事・事務局長



うえまつ ゆきお

植松 幸生

審査委員長

ノキアソリューションズ&ネットワークス合

同会社

AVA Analytics エキスパートリーダー

東京理科大学研究推進機構客員研究員



まつの しげお

松野 繁雄

スポンサー代表

NTTレゾナント株式会社

スマートナビゲーション事業部

担当部長



じょうべつ ただし

上月 忠司

スポンサー代表

富士フイルムホールディングス

株式会社

人事部 マネージャー



審査委員紹介

JPHACKS組織委員会/審査委員長
植松 幸生



かまだ とみひさ
鎌田 富久

特別審査委員
TomyK代表
株式会社ACCESS共同創業者



のぼり だいゆう
登 大遊

特別審査委員
ソフトイーサ社長
IPAサイバーセキュリティセンター
サイバー技術研究室室長
NTT東日本特殊局員



うえまつ ゆきお

植松 幸生

審査委員長

ノキアソリューションズ&ネットワークス合

同会社

AVA Analytics エキスパートリーダー

東京理科大学研究推進機構客員研究員



まとば かずみね

的場 一峰

審査委員

株式会社ヤマレコ代表取締役



こうたけ りな

神武 里奈

審査委員

JPHACKS 2015/2016 OG

株式会社マンガボックス



きむら のぶひろ

木村 信裕

審査委員

JPHACKS 2017/2018 OB



くどう たくや

工藤 卓也

審査委員

JPHACKS 2014/2015/2016 OB



むらやま ゆい

村山 ゆい

審査委員

JPHACKS 2017 OG



やまざき けんたろう

山崎 健太郎

審査委員

JPHACKS 2016 OB



まつなが たけあき

松永 赳堯

ジュニア審査委員

JPHACKS 2020 OB



こんどう りしゅん

近藤 里俊

ジュニア審査委員

JPHACKS 2019/2020 OB



たかお りょうが

高尾 凌我

ジュニア審査委員

JPHACKS 2019/2020 OB



やなぎだ ゆうな

柳田 祐奈

ゲスト審査委員

JPHACKS 2020/2021 OG



おかざき たつや

岡崎 竜也

ゲスト審査委員

JPHACKS 2019/2020/2021 OB

ジュニア審査員は毎年 JPHACKS OB/OGとして活躍している社会人から公募しております。
現在公募受付を終了し、選抜中です。

応募者のJPHACKSでの過去の受賞歴

2019でAward Day進出

Finalist Award

Finalist Award, Best Team Collaboration Award,
Innovator認定, Audience Award 4th place, Hack Award
4th place

Finalist Award、NTTレゾナント賞、スタジオ・アルカナ賞

NTTレゾナント賞、STUDIO ARCAN A賞

JPHACKS 2018 審査員特別賞

JPHACKS 2018 イノベーター認定

JPHACKS 2018 神戸大会 オーディエンス賞

JPHACKS 2019 イノベーター認定

JPHACKS 2019 沖縄大会 オーディエンス賞

JPHACKS 2020 イノベーター認定

JPHACKS 2020 関西地区 オーディエンス賞

審査員への意気込み

今までハッカソンに 20回以上参加してきて、ほとんどのハッカソンで賞を受賞してきました。

大学3年生からハッカソンに参加し始めたのですが、多くのハッカソンに参加する、ハッカソンにはまったきっかけは JPHACKSでした。

大学の先輩が JPHACKS2018でBest Hack Awardを受賞されたことを聞き、自分もその先輩のようにになりたい、自分もモノづくりをしたいと思い、ハッカソンに参加し始めました。

ハッカソンは、**開発スキルだけでなく、ファシリテーションスキル、プレゼンテーションスキル、マネジメントスキルなど、チームで仕事するには欠かせないスキルを実際に経験しながら学ぶことができる素晴らしい機会**です。

また、進路、就職先に迷っていましたが、ハッカソンを経験するにつれて、IT企業で開発に携わる仕事に就きたいと強く思うようになりました。

そして、その**ハッカソン経験から得られたもののおかげで、就活もスムーズに進み、現在 IT企業でITスペシャリスト**として働いています。

そんな僕の人生をよりよくするきっかけとなった JPHACKSで、OB審査員として携わり、学生の方々の成長のきっかけを提供することで恩返しをしていきたいと考え、今回応募しました。

OB審査員として採点するだけでなく、参加学生と積極的にに関わり、何かを与えられたらいいなと思っています。

よろしくお願いします。

本ハッカソンは、**ユニークなアイデアと高い技術力の両方が入り混じり、毎年どのチームの発表も興味深い**と感じていました。

今までは1参加者として参加していましたが、今年度は運営側として手伝わせていただきつつ、多くの学生の方々に刺激を頂きたいと思い応募をしました。

意気込みとしては、現役学生の皆さんに学ばせて貰いつつ、大会の審査基準に乗っ取った公正な審査で盛り上げたいです。



JPHACKSの 開催概要

JPHACKS運営事務局



大学共催型のハッカソン

2014年に東京大学情報理工学系研究科で設立され、現在では全国各地の大学・地方自治体と連携して開催されるハッカソンイベントに成長しました。



国内最大規模の参加者と交流

400名の参加者を超え、国内最大規模のハッカソンイベントです。
ちなみに、過去開催含むハッカソン参加者は、1500人を越えます。



技術ドリブン

全チームにGithub上での開発を推奨し、開発期間でのソースコードの差分をもとに審査委員により技術評価を行います。

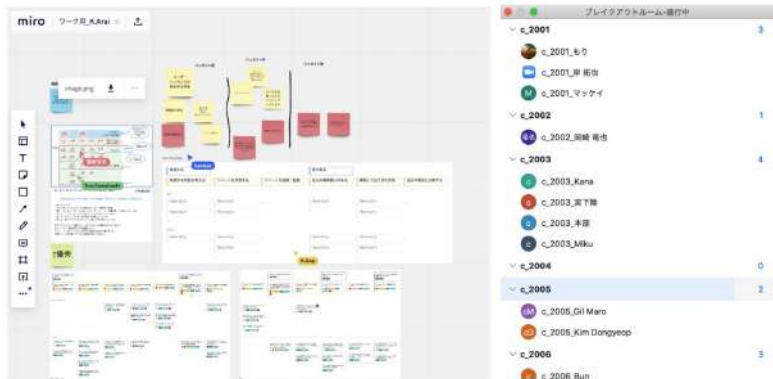
※毎年、米Github社からテクニカルパートナーとしてご支援いただいております

スポンサーと連携した事前学習期間の開催や Hacking Sprint 期間内に Meetup Night という懇親会を設けることで、学生と十分に交流できる機会を作ります。

期間・日程	イベント	内容	詳細内容
10月6日~13日	Learning Sprint	事前学習期間	平日18時~21時などで、個人参加者のチームビルディング・開発環境構築(Git, AWS等)・チーム開発(Lean/Scrumなど)講座をスポンサーと連携してオンラインでイベントを開催。
10月15日(土)	Hacking Sprint	キックオフデー	JPHACKS参加者全体のキックオフイベント。スポンサー企業の紹介や開発テーマ発表PHACKS全体の流れなどを実施。企業との交流やオンラインセッションを用意。
10月15日(土)		Meetup Night	JPHACKSスポンサー企業と学生がオンラインで懇親を深める場を提供。参加者にはフードを提供し、ざっくばらんにスポンサー企業との交流を深めることで、企業の理解やつながりをつくる。
10月16日~21日		オンライン開発期間	キックオフからピッチデーまでの間、各チームに分かれてプロダクトの作り込みを5週間。事務局で開発進捗やプレゼンテーションに向けたフォローアップを実施。
10月22日(土)		ピッチデー	6ブロック(各ブロック5チーム想定)にて発表を実施。審査委員やスポンサーは各ブロックに分かれて審査を実施。ブロックスポンサー賞、ブロック優勝を決定。
10月28日(金)	Kaizen Sprint	オンライン審査・発表	各ブロックの発表を全て録画して保存することでオンライン審査を効率的に実施。 これまで同様15チームの選定を行う。
29日~11月12日		カイゼン期間	Award進出チームには、審査委員からのフィードバック内容を受け2週間の追加開発期間を用意。
11月13日(日)	Award Day	最終成果発表会	本年はオフラインにて実施予定。進出チーム以外の参加・視聴も可能にする。 最終発表の後にスポンサーピッチをへて、スポンサー賞PHACKS賞の授与を実施。

平日18時～20時などで、個人参加者のチームビルディング・チーム開発（Lean/Scrumなど）講座をスポンサーと連携してオンラインでイベントを開催します。

開催イメージ



ウェビナー機能などを利用して、参加者に講義を実施。
参加者は自宅から参加可能で、実施してくれた企業には
最後に告知時間も設けることで PRにつながります。

開催テーマ案

開催テーマ	詳細
オンラインチームビルディングワーク	個人エントリーで、初めてチームメンバーとハッカソンに参加をする方々を中心に、オンラインで実施できるチームビルディングワークを実施します。メンバー同士との関係性を深めることでHacking Sprintでの連携を深めましょう。
アイデアソン	デザイン思考をもとにしたアイデア発散方法やアイデアスケッチなど、生産的なアイデアブレストを行います
開発環境構築講座	AWSやGitHubの使い方など、オンラインでチーム開発をする上で必要なプロセスを学びます。
Agile Lean/Scrum講座	MVPの基礎概念の理解やUser Story Mappingなどアイデアから開発プロセスへの落とし込み方法を学びます。

参加学生にとっては開発期間前の事前準備の場として、企業にとってはより深い交流や告知時間を設けることで会社の宣伝につなげる機会とします。

今年度の開催スケジュール

開催予定日	開催テーマ(仮)
10月6日(木)18:00-20:00	オンラインチームビルディングワーク ～デザイン思考で学ぶチームワーク手法～
10月7日(金)18:00-20:00	ペルソナ策定ワーク ～顧客(ペルソナ)と価値～
10月11日(火)18:00-20:00	アイデア発散ワーク ～ソリューションアイデアの発散～
10月12日(水)18:00-20:00	Value Proposition Designワーク ～VPDで実践する顧客課題の発見と解決手法～
10月13日(木)18:00-20:00	価値仮説の作成 ～競合との差別化とエレベータピッチ～

参加者400人・100チーム(目標)全体に対して進行や企業が告知できる場を設けつつ
ピッチデーでは6ブロックに分けて発表を実施します。

Kick Off Day



全員参加型のキックオフ。JPHACKS全体の流れ、開発
テーマ発表、ルール説明、スポンサー紹介等を実施しま
す。ランチやディナーセッションを設けることで、企業が
参加者全体への告知が可能です。

オンライン開発期間



各チーム、SlackやZoom等を活用していただき
1週間でプロトタイプを仕上げます。
運営事務局が開発やプレゼンテーション方法などをサ
ポートし、全体のクオリティを担保します。

Pitch Day



全体でのガイダンスを実施したのちに、A～Fブロックに分か
れて発表を実施します。
ブロック内でのスポンサー賞や最優秀賞を決定します。

開発期間を延長することで、オンライン開催に切り替えた場合でも最終的なアウトプットや
発表のクオリティを担保。また、ブロック制を設けて発表が円滑におこなえるようにします。

Kick Off Dayと同じく、10月15日に開催予定。
スポンサーと参加者が交流できる時間となります。

開催イメージ



reBakoなどを活用して、懇親会を実施
プロダクトのデモを展示しながらオンラインで交流
が可能

飲食イメージ



フードデリバリーを利用して、学生と企業で
同じものを食べながら交流いただけます

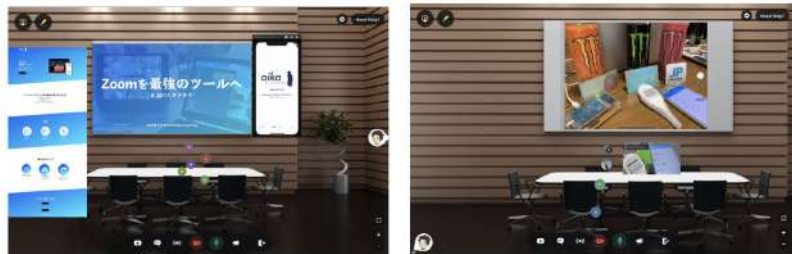
開催テーマ案

開催テーマ	詳細
アイデアフィードバック	参加者がピッチデーに向けて実装している機能へのフィードバックを実施します
キャリア・就活相談	就活対象学生を中心に就活相談やインターンシップ案内を実施
オンライン開発ノウハウ	実際にチームで手を動かすことによって生じる実践的な悩みに企業のエンジニアが回答していく

**参加学生の途中離脱防止、企業にとってはより深い交流や
告知時間を設けることで会社の宣伝につなげる機会とします。**

オフラインでの開催。Award進出チーム以外の学生の参加・視聴も可能にして視聴数を増やします。
最終発表後にスポンサーピッチ、エキスポを経て、スポンサー賞・JPHACKS賞の授与を実施します。

発表・展示会



地方学生との公平性を加味し、発表は全てオンラインから実施します。
チームごとに別れたブース展示会を実施

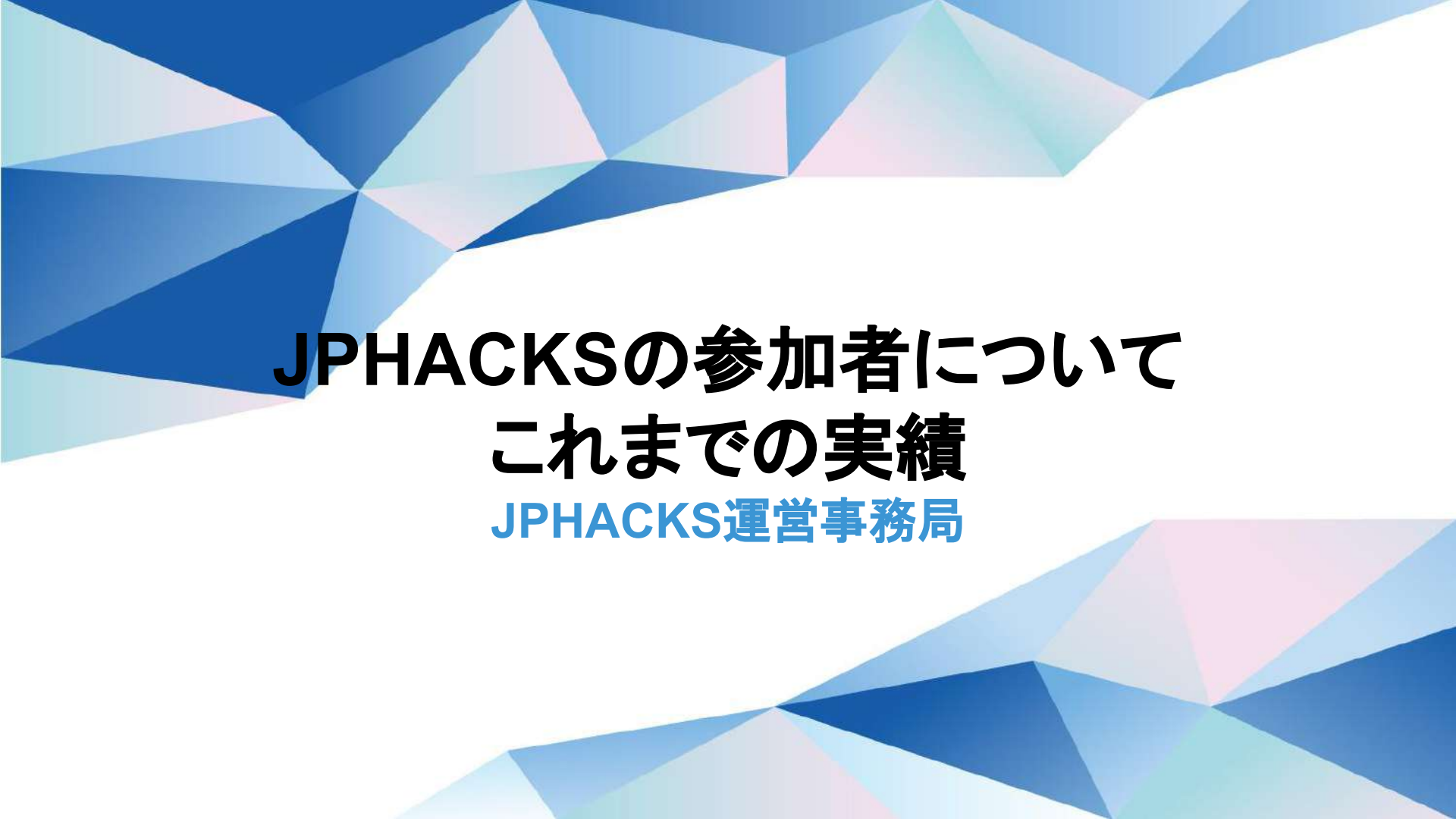
※自由出入り・質問可能なチーム別セッション

メインセッション



Zoomのウェビナーを使ったメインセッションを活用して、
最終成果発表やスポンサーピッチ、スポンサー賞の発表を行います。

感染対策を強化してのオフライン実施で、
多くの観覧学生が視聴できる状態を作り、企業スポンサーメリットを増やします。



JPHACKSの参加者について これまでの実績

JPHACKS運営事務局

共催



北海道大学



東北大学



東京大学



名古屋工業大学



筑波大学
工学部情報工学科

提携校



デジタル庁



経済産業省



協同体



神戸市



東京工業大学
データサイエンス・AI特別専門
学修プログラム



東京工業大学



北海道科学大学



北海道情報専門学院



金澤大学



仙台高等専門学校



電気通信大学



青山学院大学
社会情報学部



IPA 情報処理推進機構



新化学技術推進協会
JACI 新化学技術推進協会



NICT 情報通信研究機構



津田塾大学



関西学院大学
研究推進社会連携機構
社会連携センター



名城大学
社会連携センター



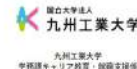
関西大学
イノベーション創造センター



NII 国立情報学研究所



奈良先端科学技術大学院大学



九州工業大学
学際研究・リサーチ・イノベーション推進

学校とのつながり、先輩からの紹介などの
JPHACKS独自のネットワークで毎年参加者が参加しています。

参加者内訳

	2019	2020	2021
エントリ合計	370	396	415
HackDay (Sprint) 参加者	313	309	251
HackDay (Sprint) チーム数	78	79	79
Award Day 参加者	72	72	77

参加者応募経路

	A	B	C	D	E	F	総計
知人・先輩からの紹介	32	45	59	42	9	14	201
学校関係者からの紹介(教授・先輩等)	25	44	16	14	4	2	105
JPHACKS運営事務局(ギブリー)からの紹介	9	14	32	10	6	0	71
公式SNS(Facebook/Twitter)の投稿	5	6	9	2	2	2	26
プレスリリース	1	3	5	2	1		12
総計	72	112	121	70	22	18	415

参加者実績

ブロック	学校名	人数
aブロック	会津大学	25
	岩手県立大学	4
	岩手大学	7
	公立千歳科学技術大学	3
	中央大学	1
	東北学院大学	1
	東北大学	12
	東北大学大学院	3
	北海道科学大学	7
	北海道大学	8
	北海道大学大学院	1
bブロック	関西学院大学	18
	関西大学	5
	京都大学	7
	京都大学大学院	6
	京都府立大学	1
	近畿大学	3
	三重大学	1
	神戸大学	2
	神戸大学大学院	1
	大阪大学	1
	大阪電気通信大学	5
	新井大学	1
	同志社大学	17
	奈良先端科学技術大学院大学	25
	奈良先端大	1
	豊橋技術科学大学	1
	立命館大学	18

ブロック	学校名	人数
cブロック	Billy	1
	一橋大学	1
	宇都宮大学	1
	横浜国立大学	4
	横浜市立大学	1
	駒澤大学	3
	群馬大学	1
	慶應義塾大学	6
	公立はこだて未来大学	1
	埼玉工業大学	1
	芝浦工業大学	6
	芝浦工業大学大学院	1
	情報科学専門学校	1
	星薬科大学	1
	千葉工業大学	2
	専修大学	1
	早稲田大学	13
	多摩大学	1
	大阪大学	1
	筑波大学	3
	筑波大学大学院	3
	中央大学	1
	津田塾大学	2
	帝京平成大学	1
	電気通信大学	3
	東海大学	4
	東京工科大学	3
	東京工業大学	1
	東京大学	18
	東京大学大学院	2
	東京電機大学	1
	東京都市大学	7
	東京都市大学大学院	1
	東京立大学	1
	東京農工大学	1
	東京理科大学	5
	東京理科大学大学院	1
	東洋大学	1
	日本女子大学大学院	1
	日本大学	2
	福井工業大学	1
	法政大学	1
	法政大学大学院	2
	名古屋大学	1
	名城大学	1
	明治大学	1
	明治大学大学院	1
	立教大学	1
	立命館大学	2

ブロック	学校名	人数
dブロック	HAI名古屋	2
	University	1
	愛知県立大学	2
	愛知工業大学	1
	横浜市立大学	1
	金沢大学	1
	公立諏訪東京理科大学	5
	三重大学	1
	相山女子大学	1
	静岡北高等学校	4
	大妻女子大学	1
	南山大学	1
	豊橋技術科学大学	1
	名古屋工業大学	5
	名古屋工業大学大学院	1
	名古屋市立大学	2
	名古屋造形大学	1
	名古屋大学	24
eブロック	名古屋大学大学院	3
	名城大学	9
	名城大学大学院	1
	立命館大学	2
	九州工業大学	1
	九州工業大学大学院	3
	九州産業大学	1
	九州大学	1
	佐賀大学	6
	鹿児島大学	5
fブロック	筑波大学	1
	東京大学大学院	1
	琉球大学	3
	UniKL	1
	ミネルバ大学	1
	会津大学	1
	京都芸術大学	1
	金沢工業大学	1
	広島経済大学	1
	埼玉大学	1
	山口大学	1
	超賢大学	1
gブロック	大阪大学大学院	1
	東京電機大学	1
	東北大学	4
	苫小牧工業高等専門学校	1
	名古屋工業大学	2

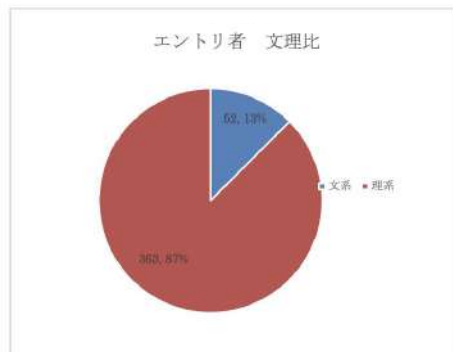


図 4. エントリー者 文理比率

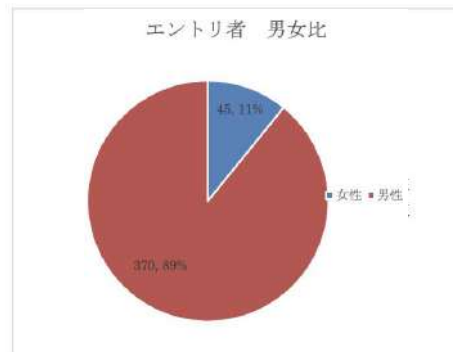


図 5. エントリー者 男女比率

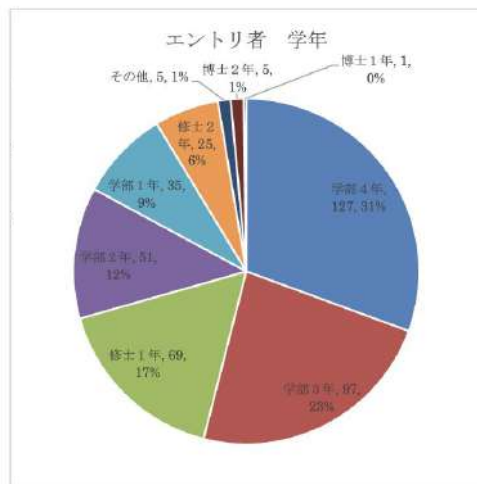


図 6. エントリー者 学年比率

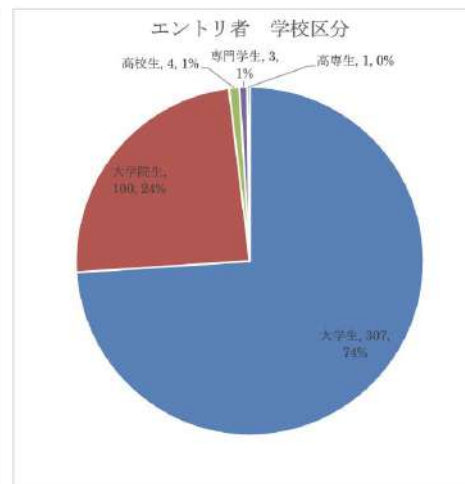
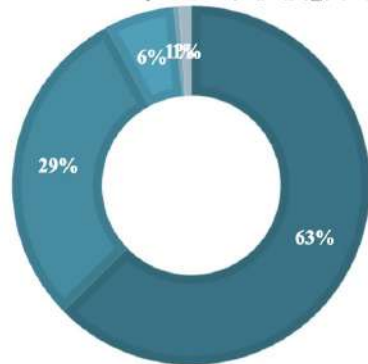


図 7. エントリー者 学校区分比率

学業だけでは得ることのできない、実践経験の場・学びの場・挑戦の場として
学生の皆さんには参加をしていただいております。

JPHACKSで普段の学業（授業）では得られない
学びがあると感じるか



- 非常にそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- 思わない
- 全くそう思わない

JPHACKSへの参加動機

